



# クマの出没が増えています

— 被害を防ぐために、今知っておきたいこと —

パトロールの様子 罠を設置している様子 収穫直前のリンゴがほとんど食べられた被害状況 デントコーンラップの食害

近年、市内でもクマの目撃情報が増えています。特に春から夏にかけては、クマが食べ物を探るため行動範囲を広げる時期であり、住宅地やその周辺での出没が心配されています。

## クマを近づけないために

クマは本来、人を避けて生活する動物ですが人の生活の中にある食べ物に引き寄せられることで、人里に近づいてしまいます。そのため、クマによる事故や被害を防ぐには、捕獲だけではなく、クマを寄せつけない生活環境づくりが重要です。クマを寄せつけないためにはどのような対策が必要なのか、現場で活動する市有害鳥獣対策専門員（ガバメントハンター）に話を聞きました。



▲枝を折られた桃の木

## 市有害鳥獣対策専門員 平田さんに聞きました



市有害鳥獣対策専門員 平田智之さん

**A.Q.** 活動内容を教えてください。  
**A.** 本年度から市有害鳥獣対策専門員として採用されました。もともと市猟友会の会員です。で、同会の一員としても活動しています。

現在は、仕掛けた罠の見回りなどのため毎日パトロールを行っている他、クマの目撃情報があった際には、警察や市猟友会と連携して現場に向かい対応しています。

農家の皆さんから作物被害の相談があった場合も、現地を確認し、必要に応じて罠を設置しています。

**A.Q.** 日常生活で注意すべきことは？  
**A.** 生ごみや放置された果実など、餌になるものを屋外に置かないことが大切です。果樹がある場合などは、周囲の草を刈ることで見通しが良くなり、クマが出没しにくくなります。人とクマが早く互いの存在に気づくことができ、距離を取ることにもつながります。

**【クマを寄せつけないために】**  
 ・生ごみを屋外に置かない  
 ・果実は収穫する  
 ・今後、果実を収穫する予定がない果樹は伐採する  
 ・家の周りの草を刈る

**A.Q.** 山林に入る際の注意点は？  
**A.** クマに出会う可能性があるので、鈴やラジオなど音を出し、複数人で行動してください。撃退スプレーは有効な手段ですが、風の影響を受けるなど扱いに注意が必要です。

**【山に入るときは】**  
 ・鈴やラジオで音を出す（鈴は体から離し、音が鳴るところに付ける）  
 ・なるべく複数人で行動する  
 ・ライトを携帯する（光が強くとストロボ機能があるとより効果的）

**A.Q.** 危険な時間帯や注意点は？  
**A.** 朝方や夕方に出没が多い傾向があります。本年は出没の時期も早くなっています。足跡やふんなどを見つけた場合は、無理に進まず引き返してください。

**【クマを見かけたら】**  
 ・近づかない  
 ・静かにその場を離れる  
 ・すぐに市や警察に連絡する

**【クマに襲われそうになったら】**  
 ・両腕で頭や顔をカバーし、地面に伏せて防御する



▲防御態勢の例

出展・県環境生活部 自然保護課リーフレット

## クマ対策システム

市では、クマの出没情報をリアルタイムで共有するアプリ「Bears」を導入しています。目撃情報をもとに、出没している場所や時間帯の目安を確認することができ、クマとの遭遇を避けるための判断に役立ちます。外出前の確認や、目撃した場合の情報提供に活用してください。市の公式LINEを友だち追加することで利用できます。

※詳しい利用方法などは市HPから



## 目撃情報の通報



▲地図上で目撃情報を確認できます ※画像はテスト環境のもので

## 目撃場所の確認

## 柿・栗などの木 伐採費用補助制度

放置された柿や栗などの木は、クマを人里に引き寄せる大きな原因の一つです。市では本年度から、クマ対策の一環として、柿・栗などの木を伐採する費用の一部を補助する制度を始めました。

「実を収穫していない」「管理が難しい」といった理由で柿・栗などの木をそのままにしている場合でも、クマ対策の観点から見直すことが重要です。

※詳しくは市HPから



クマの出没が続く中、被害を防ぐためには、クマを寄せつけない環境づくりと適切な行動の継続が大切です。クマの生態や行動の特徴を踏まえた対策を積み重ねていくことが、被害の防止につながります。日常の中でできることから取り組みましょう。

●問い合わせ 農林課 (056-6536)